

〔研究ノート〕

小規模保育所での保育理念・目標の特色から考える乳児保育

大 江 由 香
Yuka Ooe

大阪総合保育大学大学院
児童保育研究科 児童保育専攻

2015年に始まった子ども・子育て支援新制度の中に位置づけられた小規模保育所も8年が経過し、今までの待機児童対策として増加の一途を辿っていた施設数も、2019年の新型コロナウイルス感染症によるパンデミックにより新しい生活様式により、在宅ワークなども増えたことで、待機児童から定員割れに見舞われる施設や地域も出てくるようになってきている。最も乳児保育として特化している小規模保育所では意識的に保育理念・保育目標から乳児保育としての保育をどのように行っているのか、子どもにとっての乳児保育の在り様を検討していく。

キーワード：小規模保育、保育所保育指針、保育理念、保育目標、乳児保育

1. はじめに

2015年度に開始された子ども・子育て支援新制度の中で地域型保育事業^{注1)}の中の1つである小規模保育事業のことを、この論文において小規模保育園、小規模保育室という名称で運営されている施設を総称して小規模保育所と呼ぶことにし、そして2018年改定の保育所保育指針を保育所保育指針として指し、その保育所保育指針の中では乳児保育・1歳以上3歳未満児の保育としてある年齢の区分を、小規模保育所の対象年齢である乳児保育と定義しておく。

2015年の子ども子育て新支援事業をスタートさせてから、小規模保育所は全国的に待機児童対策として2015年には1555施設だったものが、2022年には5727施設まで増加して行った。だが、2020年に世界的にパンデミックを引き起こした新型コロナウイルス感染症により、新しい生活様式になり、園でのコロナ感染を懸念して利用を控えた保護者が増えたり、在宅ワークの増加や保育の受け皿が拡大したことなどにより、申込者が少なくなり待機児童の減少も見られた。2020年には出生率が1.33と減少し、出生数は84万843人と過去最低を記録した^{注3)}。そして2021年頃から待機児童解消のため多く創られた保育所、こども園としての受け皿の拡充の影響もあったようだが、受入れ可能定員よりも実際の

利用定員が38万人減ったことで定員割れが見られ始め、経営難から閉園に追い込まれる園も出て来ている^{注4)}。3歳児になると転園を迫られる小規模保育所は保育所、こども園に入れないために選択されることもまだまだ多く、保活と呼ばれる保育所に入るために保護者が活動を何度もすることをためらう都会の待機児童が多い地域でもやはり保育所、こども園から選ばれる傾向があるため、定員割れで経営自体が危うくなっていると聞くことも多い。

保育所保育指針解説^{注2)}でも乳児保育が明確化されていることで、小規模保育所でもその保育への道しるべが出来ているのではないかと。それは2015年の子ども子育て新支援事業として認可事業となった小規模保育事業においては2018年改定の保育所保育指針解説を参考にしてその保育理念や目標を園を創る際の参考にして検討されているのではないかと。ここ数年で爆発的に増加した小規模保育所としての保育がどのように営まれているのか、その創設時においては乳児保育を意識した保育を行うことを念頭に考えられた保育理念や目標から垣間見ることが出来るのではないかとということを調べてみることにした。それを今回ある一定数の小規模保育所を調べることで小規模保育所の理念や方針、目標などの特色から探りその乳児保育の在り様を探ることを目的とする。

1. 先行研究より

2015年に子ども・子育て支援新制度の下スタートした小規模保育所なためまだまだ先行研究も増えてきてはいない。2019年5月にcinii Researchにて「小規模保

大阪総合保育大学大学院
〒546-0013 大阪府大阪市東住吉区湯里6丁目4-26
jkygr729@yahoo.co.jp

育、小規模保育所」と検索した時は無認可の小規模保育所のことが検索されることもあったが、今回も増えてはいるがまだあまり数自体は増えていない。2000年以降の先行研究に着目し2022年5月に再度「小規模保育、小規模保育所」で検索すると、cinii Researchでは66件検索された。その中でも特に多いのが、アンケート調査をしたものであった。

アンケート調査の中には、保育環境の園外保育での調査や、保育施設内、保育施設の立地などからのアンケート調査で、園外活動の行動活動圏の調査やどれぐらいの利用地域資源があるのか調査をしているものなどが40件、そして運営上のことや、運営していく中での連携施設^{注1)}に関する調査したものが16件、そして食育の側面から調査したものが5件であった。

表1 cinii 検索数

調査時期	2019 年	2022 年 (2000年以降のみ)
アンケート調査中心	40 件	6 件
運営上必須項目、連携施設	16 件	16 件
食育	5 件	6 件

2019年にも先行研究を調べたが、前回と違って2000年以降だけでも運営に関するものが9件から16件に増えていることもわかった。それと同時に2015年から子ども・子育て新支援事業の開始と共に始まった小規模保育所ももう早7年が経過し、その現状や課題を扱った辻川・吉住(2019)や原田(2019)や成木(2019)の論文も出て来ている。

狭い空間で閉鎖的に見られがちな小規模保育所の問題や、保育者間の問題として成木(2020)や小規模保育所での保育を考えるものも黒澤(2017)、幸田・武田・吉次ら(2019, 2020)と数件ではあるが出て来ている。

2. 研究の主旨・対象

8年前に待機児童対策として地域型保育事業の中で認可施設になった小規模保育所である。都市部では今も待機児童は増加傾向であるが、都市部以外では新型コロナウイルス感染症がパンデミックを起こすまでは年々新設されて増加していた。令和3年4月の厚生労働省の待機児童数調査¹⁰⁾によると待機児童数が6805人減少し、新型コロナウイルス感染症を背景とした利用控えも起きていることが考えられた。そんな小規模保育所を設置する際に、小規模保育所であることを十分に意識し乳児保育として考えられた保育理念から目指している保育がわかるのではないか、そして保育目標からはその保育の内容

が見えてくるのではないかと考え0～2歳児の保育が目指していく保育の姿としてどのようなものが個別性を大事に保育されているのかについて検討したいと考えた。

(1) 調査対象

全国小規模保育協議会のHPより情報を得て、HPに記載されている全国的な小規模保育所とA県内の小規模保育所の809園で分析を行ってみることとした。

(2) 調査方法

全国小規模保育協議会とA県内の小規模保育所のHPの情報より各保育施設のHPを抽出し、その保育理念・保育目標を検討してみる。

II. 保育所保育指針解説における乳児保育の「ねらい」の考察

2015年4月から施行された子ども・子育て支援新制度により、1、2歳児を中心に保育所利用者数が大幅に増加し、保育における社会的背景も大きく変わってきた。そこで2018年の保育所保育指針の改定では、3歳未満の保育の意義をより明確化し、その充実を図った内容となっている。

その経緯としては様々な研究で、乳幼児期における自尊心や自己制御、忍耐力といった主に社会情動的側面による育ちが、大人になってからの生活に影響を及ぼすことが明らかになったことにより、乳児保育・1歳以上3歳未満児の保育が重要な時期であることを踏まえ、保育所保育指針解説ではその記載の充実を図っている。この時期の子どもが生活や遊びなどの様々な場面で主体的に人・物と関わっていかうとする姿は、「学びの芽生え」といえるもので、これから生涯の出発点となっていくものと捉えている。特に乳児期は発達諸側面が未分化であることから、「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」の三つの視点から保育内容を整理して、現場でも取り組みやすいものとして示されている。

急激に増え続ける小規模保育所でも保育所保育指針解説で明確化されていることで、乳児保育・1歳以上3歳未満の保育を行う者への道しるべとして参考になっているものがあるのではないかと考えた。そこで、保育所保育指針解説の中の乳児保育、1歳以上3歳未満の保育に当たるねらいの部分 KH コーダーの抽出語を調べ、その中から共起ネットワークで調べてみることにした。

1. 調査方法

保育所保育指針解説（2018年改訂）の中の乳児保育、1歳以上3歳未満の保育の中に書かれているねらいの部分にのみ焦点を当てどのような語彙が多く使われ、その語彙を調べることで保育所保育指針解説の中の重要な語彙をKHコーダーにて分析することで乳児保育、1歳以上3歳未満の保育の大切にしてい事項を明らかにする。

2. 保育所保育指針解説についての語彙の検討

保育所保育指針解説の乳児保育のねらいに注目して

KHコーダーにより語彙を調査してみると、多い語彙の中では図1では「興味」「豊か」「感覚」「意欲」「感じる」など身体感覚としても主体的な活動としても乳児保育であっても自ら活動していく姿が出ていることがわかる。乳児保育では自分で興味のままに伸び伸び身体を動かすことで身体発達を充実させていき、自分で主体的にその身近な環境に関わり様々な感じる、気づく、感じ取りながら五感の感覚を使い感性を育てて行くことを大切にしている。健康、安全に過ごすその保育の中の身近な大人との関わりの中で気持ちを十分通わせながら、温かい、心地よい日々を重ねていくと次第に嬉しい、親しい

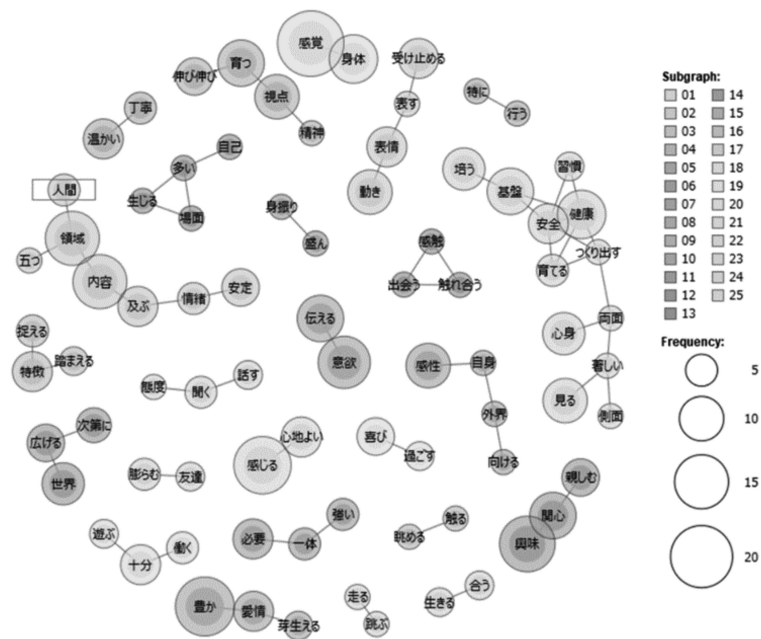


図1 保育所保育指針解説の中の語彙

表2 保育所保育指針解説の中の語彙回数

名詞	形容動詞	動詞	形容詞	副詞	
自分	61 身近	34 関わる	37 温かい	8 更に	10
言葉	49 様々	21 感じる	17 心地よい	8 伸び伸び	7
環境	31 豊か	18 楽しむ	15 楽しい	7 次第に	6
関わり	30 健康	12 育つ	11 強い	5 徐々に	6
感覚	23 安全	8 気付く	11 面白い	5 特に	3
気持ち	22 十分	8 伝える	11 多い	3 共に	2
大人	18 必要	8 見る	10 著しい	3 互いに	2
遊び	18 安定	7 示す	10 優しい	2 同時に	2
興味	16 重要	6 重ねる	10 何気ない	1 サラサラ	1
周囲	16 大切	5 育む	9 嬉しい	1 一心に	1
内容	15 丁寧	5 支える	9 固い	1 後で	1
乳児	15 健やか	4 培う	9 寂しい	1 実際	1
領域	15 盛ん	3 感じ取る	8 新しい	1 少し	1
意欲	14 いろいろ	2 及ぶ	8 親しい	1 心して	1
身体	12 快適	2 受け止め	8 脆い	1	
関心	11 簡単	2 広げる	7 早い	1	
基盤	11 直接的	2 触れる	7 大きい	1	
思い	11 不思議	2 親しむ	7 美しい	1	

などの感情を育んで行く。そしてその一番身近な大人としての保育者とは、愛情を持って受容されながら関わることの必要性を示し、健康安全に過ごすことができる環境を提供することで人と関わることへの世界も広げ情緒を安定させながらその世界を広げていくことがその役割でもあることが窺える。保育者とは、愛情を持って受容されながら関わることの必要性を示し、健康安全に過ごすことができる環境を提供することがその役割でもあることが窺える。

さらに表2では名詞だけで見ていくと「自分」という言葉が61回と多く検出され、乳児保育であっても、主体的な意欲、感覚、興味など個々の思いで感じ活動していくことが書かれていることがわかる語彙が上位で検索された。乳児の保育では乳児は受け身であると思われていた以前に比べると乳児保育が新たな知見を得て変化していることがわかる。そして乳児保育では目まぐるしい勢いで進化していく身体の発達に着目されるが乳児保育であっても主体的に活動していく様子を十分に受け止めた保育を意識することが感じられる。

そして形容動詞の中では「身近」という語彙が多く使われていることから、身近な大人、身近な環境など乳児保育での生活を表す身近な人的、物的環境に「関わる」という動詞が使われていることも窺えることができた。

保育所保育指針解説の中でも乳児保育に出てくる「心地よい」「健やか」などの語彙も乳児保育として使われているようである。

このように保育所保育指針解説の中では特徴的な乳児

保育を示す語彙もあり、この特徴的な語彙を園の保育の参考にすることも十分可能なのではないかと考える。

Ⅲ. HP からの保育理念・目標の検証

1. 対象の概要

全国小規模保育協議会に加盟されている園と、A県内の小規模保育所を中心に保育施設のHPを抽出した。

総数 809 園

表3 設置主体別数

設置主体	数	設置主体	数
株式会社	80	有限会社	7
NPO 法人	41	宗教法人	2
一般社団法人	32	医療法人	2
社会福祉法人	16	個人	2
学校法人	14	子育てサポート	1
合同会社	7	不明	7

2. 調査方法

HPに掲載されている保育理念・方針、保育目標を全施設調べていき、その語彙を共起ネットワークで調査していく。保育理念・保育方針は同項目として今回は調査し、保育目標は保育をしていくための目標であることから子どもに直接的に影響を及ぼすこととして、保育内容にも反映されていることを踏まえ別にして調査した。

3. HP からの保育理念・保育方針の検証

図2のように名詞だけを分けてみると「家庭」、「地

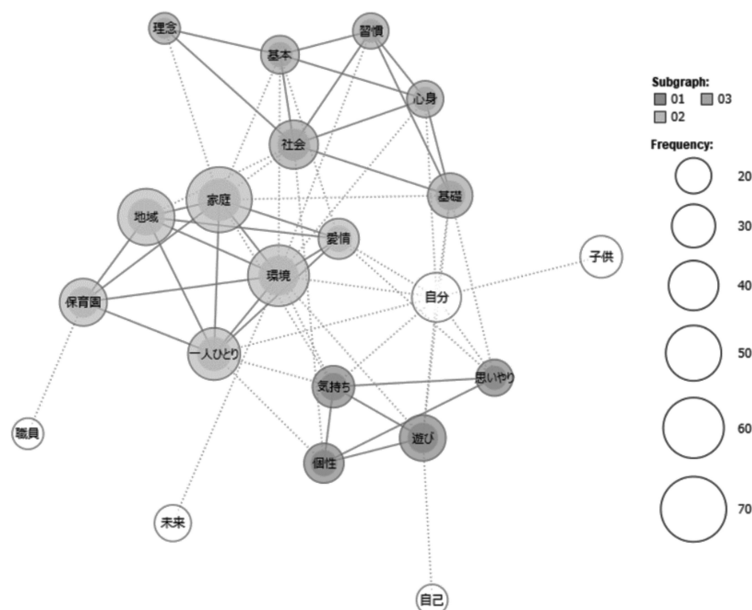


図2 保育理念・方針 名詞

域」、「環境」、「一人ひとり」の語が多く検出された。保育所として、「家庭」との協力は必須であり、「家庭」と共に子どもを育てて行こうという考えが表されている。そして、「地域」資源の活用などが保育所保育指針解説としても書かれていることや、小規模保育所としては園庭が自園にあることが少ないので「地域」の公園や広場などの「地域」資源を活用していくことが十分可能なことから、地域ということを意識されたのではないだろうか。そして次の「環境」も、「地域」として保育施設のある場所の「環境」であったり、0歳から2歳児までの小さい子どもがいるためのそれに適した「環境」であったり、ビルのテナントや商業施設の一角での保育施設としての「環境」も小規模保育所としては注目されている「環境」でもあり、その小さな「環境」でも小さい子ども達には十分な「環境」であることを強調されていることが窺えた。そしてその次に多い「一人ひとり」は小規模保育所では小規模保育A型、B型では人員配置が保育所の配置基準＋1人、小規模保育C型では3人に対して1人という配置基準ということでも、元々子どもの人数も少ないうえに、手厚い保育であることを強調されていることもわかった。その他にも乳児保育であることからその全てが生活であることから、社会生活の基礎や生活習慣を身につけていくことにも重きを置いていることも明らかになっている。そして、「遊び」「気持ち」「思いやり」といったものからは個性を発揮しながら自己実現をしていきながら、その子どもの世界を広げていくという様子も窺えている。

次に図3として、動詞で見ていくと、「育てる」「育

む」という語彙が上位を占めた。

少ない人数であるからこそ、丁寧な育てていくことを強調されている。その次に「できる」「考える」などの語彙がついで出て来て、子ども自身が主体的に自ら学ぼうとする姿勢を大切にしていることを尊重していることが保育理念・方針の中に書かれていることがわかる。そして、保育者はその様子を「見守る」「寄り添う」という姿勢も書かれていることもわかった。そして図4では形容詞・形容動詞で見えていくと、「大切」という語彙が上位として検索された。「豊か」「健やか」などの語彙も多いようであったが、それもまた丁寧な保育であるということを確認されている。

Ⅳ. 小規模保育所における「保育理念・保育指針」の考察

HP における全部の語彙の様子を図5から見ていくと、「保育」ではやはり「地域」「家庭」と共に「連携」して保育を行っていくことを「目指す」ことが多く書かれ意識されている。そして、内面の育ちとしては、「心」「豊か」に「一人ひとり」を「大切」に「育てる」という思いが意識的に書かれている様子もわかる。その上で、「生活」「習慣」が身につけられるように、「生きる」ための「力」を「培う」「基礎」を「育む」なども考えられていることも窺える。

保育の中でも「様々な」「体験」「経験」を「地域」「安心」「安全」な「環境」の中で「感じる」ことなども「健やかな」「成長」にも結び付いていっていることなど

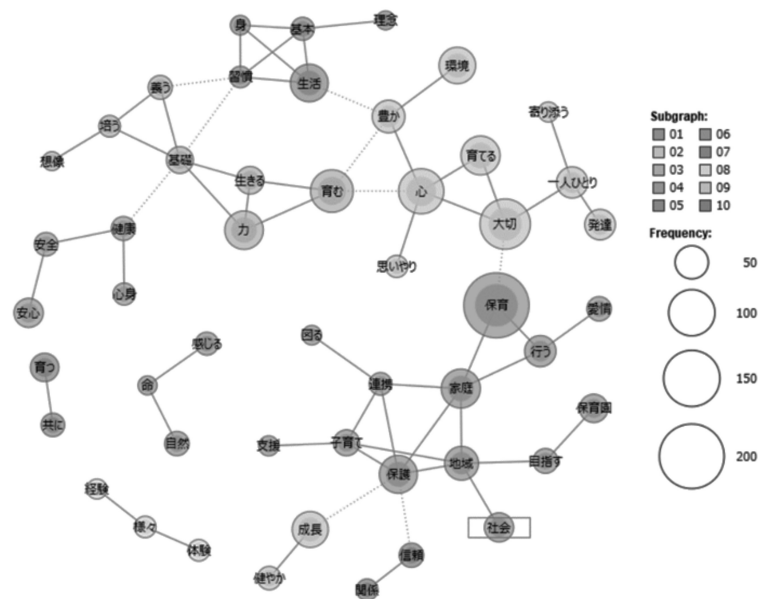


図3 保育理念・方針 動詞

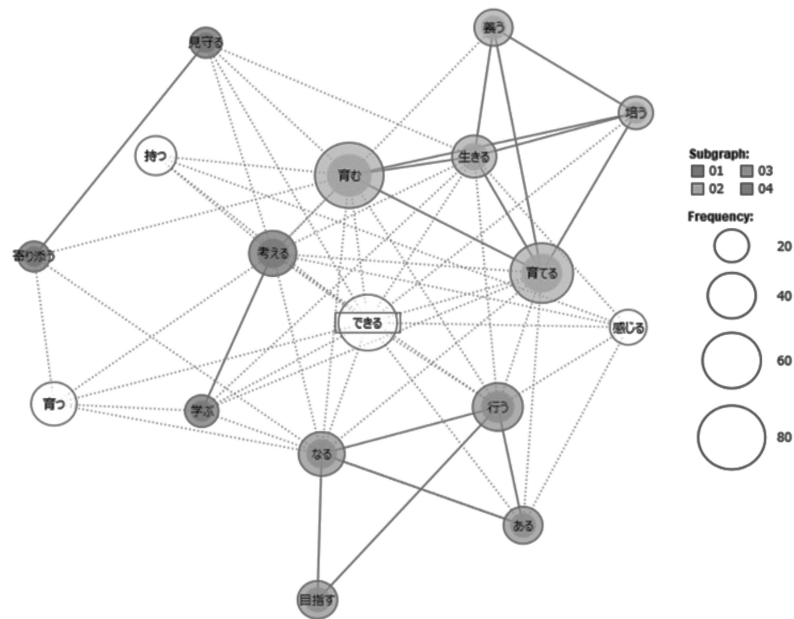


図4 保育理念・方針 形容詞、形容動詞

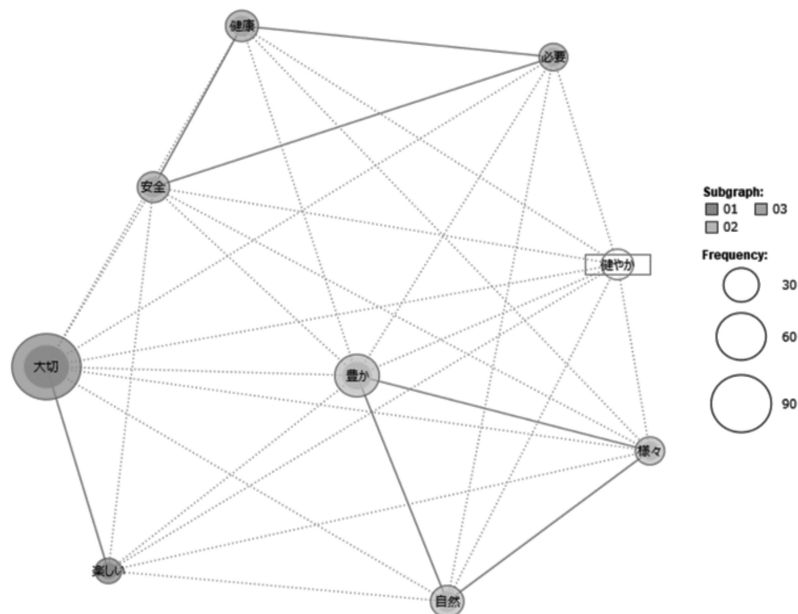


図5 HPからの保育理念・保育方針

を考えている施設も多いことが表れている。

保育所保育指針解説と照らし合わせて見ると、身体発達に伴い自分自身で体験・経験しながら発達していくことが見られ、乳児保育として意識している部分としてよりも小規模保育所というその環境であることの人的環境や物的環境を活かした保育であることが示されている。保育所保育指針解説の中での、「健康」「健やか」などの乳児保育の養護の部分である安全・安心なものと育つことは十分理解されている様子が窺えた。やはり保育理念・保育方針となると、その保育環境や施設としてどうして

いくのかということが多く書かれ、まずは安全安心に過ごせる環境、そして子ども自身が育っていくという「子ども像」⁸⁾や生活習慣の獲得を助長することであつたりなどをうたっているものが窺えた。

1. 保育目標からの検討

保育目標は保育施設自体がどういう子どもに育てたいか育てたいかというもので、それは保育の内容に直結していくものであると考えられる。その保育目標を見ていくことで特徴的な保育が浮彫になるのではないかと

考えた。

図6を見ることや多い語彙としては「自分」「豊か」「大切」などの語彙があり、「自分」ということで子ども自身が主体的に活動していく、「自己」「意欲」「考える」などの語彙が多く見られ、そこはどの施設も念頭に置いているのではないだろうか。そして「心身」を使った活動により、「元気」「健康」を得たり、「思いやり」「感性」を得て行くことも考えられている。「地域」「社会」や「家庭」「自然」などの環境も十分考慮され、地域活動を利用したり、家庭の協力を得ながら共に子どもを育てていくことが意識的に取り入れられ、保育としても心がけていることが窺えた。

「遊び」を大切に考え「遊び」の中から「興味」「関心」「喜び」「感じる」ことができるような体験・経験、そして「大切」「豊か」「育む」など「一人ひとり」に「寄り添う」ことで個々に興味を持ったことをやってみることも保育内容として現れてきているのではないかと感じる。

表4からもわかるように「自分」「豊か」などの言葉が保育目標としては多く使われていることがわかる。保育目標としては副詞に使われる「生き生き」「ワクワク」や形容詞の「楽しい」「明るい」「温かい」などの言葉が使われている特長なのではないかと考える。形容動詞として出て来ているものとしては、健康に健やかに育つと

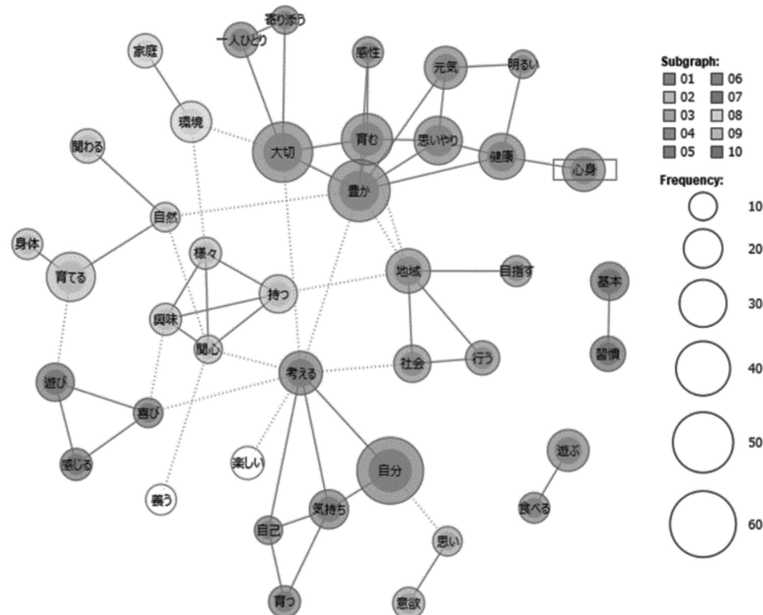


図6 HPからの保育目標の共起ネットワーク

表4 HPからの保育目標 語彙

名詞		サ変名詞	形容動詞	動詞	形容詞	副詞	名詞B	
自分	61	保育	67 豊か	52 育む	35 楽しい	14 生き生き	5 こころ	10
思いやり	31	生活	50 大切	49 育てる	32 明るい	10 仲良く	4 こども	8
地域	26	表現	32 健康	28 考える	25 温かい	8 常に	2 からだ	7
心身	24	保護	21 元気	24 遊ぶ	23 新しい	4 ワクワク	1 もと	3
環境	22	成長	18 様々	13 持つ	19 優しい	4 共に	1 うち	2
気持ち	20	行動	14 自然	11 関わる	15 規則正しい	2 極めて	1 のびのび	2
基本	19	創造	12 安全	9 行う	15 広い	2 互いに	1 うた	1
遊び	19	関係	11 健やか	8 育つ	13 正しい	2 思い通り	1 おと	1
社会	18	安心	10 安定	7 感じる	13 大きい	2 時には	1 おもちゃ	1
一人ひと	16	発達	10 さまざま	8 食べる	12 良い	2 初めて	1 かかわり	1
習慣	16	活動	9 健全	5 目指す	12 強い	1 少し	1 がた	1
家庭	15	信頼	9 丈夫	5 養う	12 近い	1 伸び伸び	1 から	1
意欲	13	体験	9 素直	5 学ぶ	11 重い	1 仲よく	1 きまり	1
興味	13	子育て	8 身近	4 寄り添う	10 小さい	1 当然	1 けじめ	1
感性	12	共感	7 不安	4 思う	8 清い	1 特に	1 こと	1
身体	12	形成	7 穏やか	3 図る	8 美しい	1	1 そのもの	1
人間	12	経験	7 可能	3 伝える	8 幅広い	1	1 たま	1
喜び	11	尊重	7 好き	3 通す	7 無い	1	1 ため	1
個性	11	支援	6 細やか	3 広げる	6		1 つけ	1
思い	11	食事	6 十分	3 持てる	6		1 つながり	1
関心	10	あいさつ	5 大好き	3 受け止める	6		1 めぐもり	1
		運動	5 適切	3 笑う	6		1 ねんね	1

いう部分が「健やかに伸び伸びと育つ」という保育所保育指針解説の乳児保育から意識されているところなのではないかと推察する。動詞としては、「育む」「育てる」「育つ」「寄り添う」と子どもにとっては受け身的な語と「考える」「遊ぶ」「感じる」「伝える」と子ども側の主体的な語の両方が見られている。サ変名詞とは次に「する」という動詞とくっつきやすい語であるが、その中でも保育の場として「生活」するということを重点として「保護」され「成長」を見守られ「発達」していくことを保育の中でも意識しているということが記載されている。

2. 保育目標からの考察

保育目標を調べてみたが、その中からは特徴的な保育を表す保育目標の中において書かれていたとは、言えなかった。今回調査した中の多くの施設でやっているとは言えないが、HPの上から特徴的な保育として読み取ったものの中には英語教室、体操（運動）教室、リトミックなどを特徴的な保育として組み込んであり、月に数回でも取り入れている施設が40数件見られた。それ以外にもモンテッソーリ教育、知育、造形活動などを取り入れている園もあったが、それは保育目標としては反映されてはいなかった。保育所やこども園でも近年取り入れられていることも、子どもの早期教育を意識した保護者へ向けて示している保育内容になっているのではないかと考える。

保育目標としては子ども自身が主体的に育つことを助長しているということや、色々な人的環境、物的環境の中で子どもが育っていく様子や、地域社会や地域の自然との関わりの必要性からも、興味関心や思いやりが持てるような活動の中で子どもを育てていき、2歳児の終わりまでに向かっていく姿として掲載されていた。

保育目標として、「○○な子」という表現方法も見られたが、健康に安全に、よく食べてというような生命の保持の部分の書かれ方という項目がある。その他には思いやり、感謝する心などの心情に関する項目や、主体的に遊ぶ、探求する心、自分で考え表現するなど、心情を表す項目が見られた。その3つを総称してみると「心情・意欲・態度」がその軸にあることが窺える。保育所保育指針解説の中のその部分を意識して立てられていることがわかった。その3つを柱に置きながら保育目標としている様子を見ることができた。

実際に保育の営みの中で行われている、英語教室や体操教室、リトミックなどを連想される語彙は文章の中に入っていることはなく、保育目標を見る限りその保育は想像できないが、普段の保育では「心情・意欲・態度」

を育てて行くことを念頭にしている施設がほとんどであった。

V. 総合考察

今回分析する中でさまざまな小規模施設を調べること、どの施設も保育所保育指針解説を念頭に置きながら自園に合う言葉を選びながら、その保育理念や保育目標を立てていることがわかった。乳児保育ということで、やはり養護の面からの健やか、健康、関わる、安全などの語を用いて表現されていることはどの保育施設でも見られた。そして、思いやり、素直に感謝する、などの心情面からも考えられている。そして、保育理念にも保育目標にも主体的という語は意識されていて、子ども自身が意欲を持って、遊ぶ、活動するという意識的に作られていることがわかった。それはやはり保育所保育指針解説に書かれている乳児保育の内容を理解しているからなのであろう。今回HPからの小規模保育所の調査では学校法人や宗教法人、数多くの小規模保育所を運営している法人は他にも幼稚園や保育所、こども園を運営されていることもあり、その小規模保育所の保育理念は小規模保育所と言えども子どもの育ちが大きい年齢の子どもにまで続いている子どもを意識した保育理念や保育目標と同じであることもわかり、個人経営や1園2園ほどの数で運営している小規模保育所の方が保育所保育指針解説での乳児保育の考え方を参考にされていることも窺えた。

次に乳児保育という側面から見てみると、安全に過ごせる場所の提供はされていて、子どもが主体的に過ごすということも意識されている。乳児保育という身体的な月齢差、発達差が大きく出ている子どもをひとまとめに活動すること自体に無理があるためその配慮は必要である。そして園として意識されていた「家庭」と共に子育てをしようという考え方も2020年以降の新しい生活様式では在宅ワークも増えたことで、ベビーシッターの利用率が上がっている。家庭だけでなく社会全体で子育てをサポートするという流れになってきている。

2018年改定保育所保育指針解説にも乳児期は、主体として受け止められ、その欲求が受容される経験を積み重ねることによって育まれる特定の大人との信頼関係を基盤に、世界を広げ言葉を獲得し始める時期であり、保育においても愛情に満ちた応答的な関わりが大切である、としている。しかし、月齢差、発達差を考慮した個別対応を尊重しているという個々を尊重し個々の違いに配慮した保育や保育計画がなされているのかどうかは今回の分析ではわからなかった。

分析をしていく中でHPで掲載されていた特徴的な保育として読み取ったものの中身からは、0歳児の睡眠と各年齢でも食事はグループごとに摂られているところのことは記載があるが、手洗い、トイレ、排泄の場面では一定のリズムで書いてあり、HP上からは乳児保育での個性を感じる記述は見られなかった。HPというページ数の制限もある少ない情報から知ってもらうためには細かい記載は不十分であると思われる要因も考えられるため、実際の保育現場への聞き取りや実際の現場を観察することでそこは調査していくことが必要である。どの施設も一人ひとりと関わる、個に寄り添う手厚い保育を実践の中では意識して行っていて、小規模保育所の良い面を十分に把握しているにも関わらず、全ての時間で個別対応という記述があるところはなかった。実際どのようにしているのかは、HP上であるため明らかなではないが、そこは今後実際の保育現場での調査分析していく必要があると考える。

注

- 1) 地域型保育事業は、利用児童に対する保育が適正かつ確実に行われ、地域型保育事業者による保育の提供終了後も満3歳以上の児童に対して必要な教育又は保育が継続的に提供されるよう、「家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準（平成26年厚生労働省令第61号）」（以下「設備運営基準」という。）第6条において、①保育内容への支援、②代替保育の提供、③卒園後の受け皿の役割等を担う「連携施設」を確保することが求められている。
- 2) 厚生労働省 編『保育所保育指針解説平成30年3月』（2018）株式会社フレーベル館 P459 P90
- 3) 厚生労働省（2020）「令和2年（2020）人口動態統計（確定数）の概況」
- 4) 厚生労働省（2022）「保育所等関連状況取りまとめ（令和4年4月1日）」

文献

- 原田キヨミ（2019）守口市の小規模保育事業の現状 季刊保育問題研究／全国保育問題研究協議会編集委員会 編、(296), 313-316
- 幸田瑞穂、武田俊昭、吉次豊見、萩原文、横谷仁美、下村春海、山下鈴乃、遠藤由美子（2019）子ども主体としての心を育てる保育に向けて：小規模保育施設での実践と課題 湊川短期大学紀要、55、15-23
- 幸田瑞穂、武田俊昭、吉次豊見、萩原文、横谷仁美、坂田由香里、山下鈴乃、遠藤由美子、藤丸明日香（2020）子ども主体としての心を育てる保育に向けて（2）自己充実欲求を視座に小規模保育のあり方を考える 湊川短期大学紀要、56、31-38
- 黒澤ひとみ（2017）小規模保育事業の現状と課題：乳児保育の観点から考える あいち保育研究所研究紀要／あいち保育研究所 編、(8)、6-9
- 成木智子（2019）子育て支援制度における小規模保育事業の現状 神戸海星女子学院大学教育研究紀要／神戸海星女子学院大学研究委員会 編、(3)、7-13
- 成木智子（2020）小規模保育園における保育士間連携の考察（1）神戸海星女子学院大学教育研究紀要 神戸海星女子学院大学研究委員会 編、(4)、19-22
- 辻川ひとみ、吉住優子（2021）小規模保育施設における保育運営と施設計画に関する基礎的研究 帝塚山大学現代生活学部紀要、17、18-26
- 大阪総合保育大学 総合保育研究所乳児保育プロジェクト（代表：大方美香）（2014）『総合保育双書2乳児保育計画論～2つのタイプ事例を比較して～』ふくろう出版、P218、P64
- 内閣府 子ども・子育て支援新制度 <https://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/sukusuku.html>

付記

本論文に関して、開示すべき利益相反事項はない。

謝辞

本論文を作成するにあたり、御助言ならびに御指導いただきました大阪総合保育大学大学院学長大方美香先生には心よりお礼申し上げます。

Infant Childcare Based on the Characteristics of Childcare Philosophy and Goals in Small-Scale Nursery Schools

Yuka Ooe

Osaka University of Comprehensive Children Education Graduate School

Eight years have passed since the small-scale daycare centers were included in the new childcare support program that began in 2015, and the number of facilities, which had been increasing as a measure against waiting children, has also been increasing due to the new lifestyle caused by the pandemic of the new type of coronavirus infection in 2019, including work-at-home programs, and some facilities and regions have begun to experience a decline in the number of children on waiting lists. However, due to new lifestyles and the increase in home-based work due to the pandemic of the new type of coronavirus infection in 2019, the number of facilities has been on the rise. We will examine how small-scale day-care centers, which specialize in infant care the most, consciously implement infant care based on their child-care philosophy and goals, and what infant care should be like for the children.

Key words : small-scale childcare, childcare guidelines, childcare philosophy, childcare goals, infant care